



愛隣幼稚園.....

# 園だより

.....17. 12月号

## 驚きとともに

秋は駆け足でした。運動会、遠足、X1を通してそれぞれのクラスの子どもたちの距離がぐっと近くなりました。クラスの中だけではなく、幼稚園中の子どもたちの距離も近くなりました。ふくろう組のX1“ふくろうタウン”で過ごした日のお弁当の時間には、たんぼぼやばらの何人かの子が、1人で大きい組の人たちの中に混ざって楽しそうにお弁当を食べていました。安心して過ごすことができる場が広がり、人との関係が広がっていった秋を嬉しく感じました。

さて、そうこうするうちに幼稚園はアドベント（待降節＝イエス・キリストの降誕を待ち望む期間）に入りました。11月21日の朝、幼稚園の様子は一変します。門にはリースが飾られ、それぞれのクラスもクリスマスの様相で、登園してくる子どもたちを迎えます。礼拝をするホールにはクランツと呼ばれる燭台が置かれ、4本のろうそくが立てられています。この日がアドベント礼拝の1回目、1本目のろうそくに灯が点され、礼拝を守ります。また、この日の礼拝の後には大きい組に聖書が贈られます。また前日には子どもたちにアドベントカレンダーが届けられました。「アドベント礼拝の朝に1つずつ、窓を開けてきてね。」と先生からお話を聞いて持ち帰りました。窓を開けるとそこにはその日の礼拝のお話の主人公が現れるようになっていきます。このようにして毎年、毎年同じように私たちはアドベントの時を迎えています。しかし、今年初めて愛隣幼稚園でこの時を迎えた子どもたちには、“同じ”ことは1つもない、驚きでいっぱいの日であることを思わされる時でもあります。アドベントカレンダーの最初の窓を開けてきたたんぼぼ組のHちゃんは「シンデレラだったよ!」、Y君は「あのねなんか電気の光が当たって、おばさんがなんかしてた!」おそらく2人とも『クリスマスって言ってたけど、なんかヘンなの?』と思い、予想と違う事に驚いたはずですが、そしてたんぼぼ組の前では、昨日まではなかったクリスマスの飾りに登園してきた子どもたちが驚いています。さらに大きい組と手を繋ぎ、いつもの礼拝と変わらないつもりでホールにやってくると、大きなろうそくが4本立てられたクランツが目飛び込んできます。『クリスマスって、サンタクロースがプレゼント持ってきてくれるんじゃないの?これ、違うんだけど。一体全体どういうこと?』そんな風に驚き思いめぐらしている子どもたちに、マリアに起った出来事がアドベント礼拝最初のお話として届けられるのです。

実は、そのマリアがこの日の子どもたちと同じように驚いていました。「あなたは神様の子どもを産みます。」そんなことを突然、天使に告げられて驚かないはずはありません。何のことかと耳を疑ったことでしょう。しかし、天使は続けます。「心配することはありません。神様にできないことはありません。」と。そして戸惑いながらもマリアはこの驚くような出来事を受け入れていきます。同様に羊飼いに天使はこの知らせを届けます。天使は言います。「今日ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになりました。」羊飼いたちも驚いたはずですが、「私たちのために?救い主がお生まれになった?」驚きながらも羊飼いたちは、その事実を確かめようと急いで出かけていくのです。博士もヨセフも皆、同じでした。驚きながら神様の言葉を聴き、その事実を目の当たりにしました。神様の子どもイエス様が天使の言葉通りこの世に生まれたのです。その名はインマヌエル（「神は我々と共におられる」という意味）と呼ばれました。不思議な出来事に誰もが驚きながらしかしその事実に出会い、神様の祝福を確信し、御子の誕生を心から喜び、祝いました。

子どもたちは2017年前のマリアや羊飼いたちと同じように、初めて聞く物語に驚きながらアドベントの時を過ごしています。「神様にできないことはありません。」「あなたがたのために救い主がお生まれになりました。」「インマヌエル（神は我々と共におられる）」神様の言葉が、初めてのクリスマスの驚きと共に、子どもたちの心に留められますように。聖書を手にしたふくろう組の子どもたちが、大事に嬉しそうに聖書を開き、この言葉を読んでいます。幼稚園を離れても、クリスマスは毎年やってきます。いつか聖書に書かれた神様の言葉が思い起こされるとき、それが命の言葉となってひとり一人を支えるものとなりますように。